

まちかどフォトニュース

おもしろいこと、珍しいもの、どんなことでもいいので耳よりな情報をお知らせください。
三好市 秘書広報課 ☎ 72-7646



中四国で唯一 観光圏認定を記念し総会

三好市など県西部の2市2町と県、民間事業者で潜在型観光に取り組む「にし阿波～剣山・吉野川観光圏」が観光庁より全国6か所の観光圏の一つとして認定されたことを受け、5月28日吉野川ハイウェイオアシスで記念総会が開催されました。総会では、これまでの経過や観光庁観光地域振興課の七條牧生課長を講師に記念講演、また、立教大学の清水慎一教授をコーディネーターに「住んでよし、訪れてよしの観光まちづくり」をテーマにトークセッションも行われ、日本の顔となるブランド観光地域の確立に向けて課題や意見が述べられました。

優勝旗を目指して はつらつプレー

5月12日、「第1回 葛文也旗争奪大和チャレンジカップ」の開会式が三野グラウンドで行われました。今大会は、葛文也杯選抜野球大会実行委員会が、三好少年軟式野球連盟主催の「大和杯チャレンジカップ」を支援することで、対象地域を美馬・三好郡市に拡大し、大会名も「葛文也旗争奪大和チャレンジカップ」として新たに開催されたものです。開会式の前には、実行委員会が制作した紺色の優勝旗が寄贈され、野球少年たちは真新しい優勝旗を目指して、はつらつとプレーしました。



船井哲良さんに感謝状を贈呈

昨年12月に船井哲良様より、船井電機池田工場跡地を三好市に寄贈いただきましたことに感謝の意をこめ、5月25日、ホテル秘境の湯において「船井哲良記念公園(仮称)受贈式典」が開催されました。市長から「寄贈いただきました土地には、多くの市民が集い、全国の人々との交流を創造する施設を建設します」と感謝状を贈呈しました。三好市への貢献に対する徳島県表彰もあり、飯島知事より表彰状が贈られました。船井会長は「三好市は心のふるさと。人が交流、成長できる拠点にしてほしい」と述べられました。式典後、とくしま記念オーケストラによるミニコンサートも行われました。

勘緑さんの浄瑠璃人形を展示



人形浄瑠璃により親しみを持ってもらおうと、三好市出身で浄瑠璃人形遣いとして活躍されている勘緑さんの所有する浄瑠璃人形などの展示が「阿波池田うだつの家」の一室で5月30日から始まりました。

この日は、地域の方も一緒になって、勘緑さんが普段公演に使用している人形や小道具などの展示を行いました。展示後には同場所で勘緑さんによるミニ公演も行われ、訪れた方は間近で見ると人形の細やかな動きや表情、迫力に魅了されました。

地域と共に福祉の文化を



「地域とともに未来へ、福祉の文化を築こう」をテーマに、池田博愛会などが主催している第34回博愛まつりが、5月26日に箸蔵近隣公園周辺で開催されました。開会宣言とともに約1000個の風船が放たれた後には、箸蔵小学校鼓笛隊による演奏やバルーンパフォーマンスなどが披露されました。また、輪投げや金魚すくい、キックターゲットなど、子どもが楽しめるイベントもたくさんあり、会場は、多くの家族連れらで賑わいました。

フットサルでプロ選手と交流



フットサルの日本リーグ(Fリーグ)で6連覇中のプロチーム「名古屋オーシャンズ」と徳島市が本拠地のアマチュアチーム「ヴェロダ徳島」とのプレシーズンマッチが5月26日、池田総合体育館で開催されました。詰めかけた約800人の観客からは、ゴールが決まるたびに歓声が上がり、プロの繊細なボールタッチや緩急に富んだパスに魅了されました。また、小中学生を対象とした技術指導やサイン会もあり、子どもたちは選手と交流を深めました。

にし阿波の自然を駆け巡る

にし阿波の雄大な自然を駆け巡るサイクルイベント「第4回 自転車王国とくしま ツール・ド・にし阿波」が5月12日に池田湖水際公園を発着点で開催され、県内外から集まった自転車愛好家774人が参加しました。今回、大会が始まって以来初めて3つのコース(50km・80km・103km)すべてで「逆ルート」が採用され、爽やかな風の中、参加者は吉野川の清流や新緑溢れる阿讃山脈など、これまで気付かなかった逆周りならではの、にし阿波の景観を堪能しました。



自然の中で溪流釣りを満喫

西祖谷山村の祖谷川で5月4日と5日、恒例の第28回西祖谷あめご釣り大会が開催されました。家族連れら約120人が集まり、午前8時の開始とともに一斉に大物を狙ってさおを出しました。参加者は祖谷の大自然を満喫しながら、溪流釣りを存分に楽しみました。

また、4日には小学生以下の子どもたちを対象にしたアメゴとマスのつかみ取りもあり、子どもたちは水の冷たさも忘れて歓声を上げながら懸命に魚を追いかけました。